

## 「地域コミュニティ形成事業」について

幌延町では、いつまでも地域や集落で暮らし続ける仕組みづくりとして、「地域コミュニティ形成事業」という集落支援対策の取組を進めることとなりました。

### 1 地域・集落の現状(別紙1)

地域や集落が繁栄していた頃、日常的に地域集落全体が支え合い、助け合う「向こう三軒両隣」ともいえる「地域力」で地域の機能や暮らしを維持してきました。

しかし、少子高齢化、人口減少、核家族化、就業形態などの変化によって、その「地域力」が低下し、地域や集落で暮らし続けることが困難になり、「限界集落」、「消滅集落」と集落形成維持の危機に直面しています。

### 2 「地域コミュニティ形成事業」の目標

町では、こうした人口減少等により地域力・集落力が低下し限界集落等の危機に際し、「地域コミュニティ形成事業」という集落支援対策によって、昔は自然と成り立っていた地域や集落の支え合いの仕組みや役割を「地域運営組織等」が運営する「集落支援センター」が果たし、いつまでも暮らし続けられる地域や集落を目指します。

#### ～ 「地域コミュニティ形成事業」の目指す姿 ～

「地域運営組織等」が運営する「集落支援センター」によって集落機能を維持し、いつまでも暮らし続けられる地域・集落を目指します

#### ◆地域運営組織等

地域住民自らが主体となって、住民合意形成のもと、各人の役割分担を明確化し、日常生活機能等確保・地域産業機能等推進を持続的に実施する組織で、地域集落団体等が参画したNPO等を想定しています。

#### ◆集落支援センターとは

地域と行政の中間的役割として、公共的なサービスを提供して集落機能維持に努めるもう一つの役場として、集落により身近な地域運営組織等が実践する地域住民が真に望む機能を集約して提供する拠点です。

### 3 集落支援センターの役割(別紙2)

#### ①集落機能を維持し、そこに住み続ける仕組み

(例)日常生活支援(かゆいところに手が届くサービス)、高齢者サロン(居場所づくり)、地域ふれあい食堂(配食)、買物支援、地域内等移送支援、特産品開発、移住促進、産業雇用創出等

## ②肥大化する公共的機能の分業、担い手づくり

必ずしも行政で実施しなくてもよい公共的役割については、ボランティア機能を有した拠点で実践して、行政のスリム化と円滑な公共的サービス提供を図ります。

また、元気な高齢者が支援を要する高齢者に少しのお手伝いをすることによる生きがいづくり、居場所づくりを目指します。

## ③地域インセンティブボランティア制度構築

無償ボランティアだけでは持続可能性に欠ける可能性があり、ある程度のメリットを提供するため、地域内循環が可能な特典を付与しボランティア活動に携わっていただく仕組みの構築を目指します。

を想定しています。

## 4 「地域コミュニティ形成事業」に求められる考え方：住民自治や協働のプロセス

行政主導型の事業展開は、ともすると地域住民に受動体質を生じさせてしまい、住民参加を促しても共に行動できない要素の一つとなる場合があります。

本事業の目指す姿は、持続可能な集落機能維持にあるため、事業展開の際には、住民皆さまが自ら考え行動した結果の施策でなければ、長続きするものとはならないため、集落住民皆さまと共に時間をかけて未来を考え、解決策を模索していく仕組みづくりが必要不可欠となります。

よって、住民皆さまが思い描く地域集落の5年後、10年後、30年後の未来像、子供や孫たちに残していきたい未来の集落を皆さまと共にで作っていくという共通認識の構築を目指しています。

## 5 具体的な事業展開

### (1)活用施策・取組・展開など

#### ①地域集落の行事などに参加します

- ・地域集落と連携して、課題収集・整理・検証、集落未来像形成確立します
- ・地域集落が真に必要なとすること、どんな地域をつくりたいかを整理します

#### ②集落支援員を導入配置します

- ・集落のお困りごとを拾ったり、集落未来像を懇談したりします
- ・地域おこし協力隊が円滑に活動できるよう、地域集落とのコーディネータとなります
- ・協力隊員が継続的に集落支援の担い手になれるよう卒業後の受皿となります

#### ③(おためし)地域おこし協力隊導入

- ・令和2年度に集落支援分野における「地域おこし協力隊」を導入予定です
- ・地域集落支援に際して真に必要な人材となるため人材育成プログラムを実践します

#### ④その他：各種研修会、視察等実施、まちづくりコーディネーター育成事業等